

宝生流企画公演
夜能

夜樂の調べ

平成三十一年四月二十六日(金)

開演 十八時三十分
開場 十七時三十分
於 宝生能楽堂

鼎談解説

司会 日置 貴之
白百合女子大学准教授

18:40 箏曲生田流 尾上の松

東京藝術大学学生

19:20 藤戸順

ワキ 大日方 寛

大鼓 柿原 直弘
小鼓 鳥山 和也

笛 成田 寛人

ツケ 野口 能弘
野口 琢弘
間高野 和憲

後見 宝生 和英
小倉 健太郎

地謡 澤佐内辰 飛和
田野藤巳 宜磨

山東渡 久内川 茂
久内 崇光
莊 太郎 夫人

20:40 仕舞 テーマ 【水】

玉之段 天鼓 船弁慶

山内 崇生
渡邊 茂人
佐野 玄宜

澤田 宏司
小倉 健太郎
和久 莊太郎
内藤 飛能

終演予定 二十一時頃

《 箏曲生田流奏者 》 東京藝術大学音楽学部邦楽科



能「藤戸」シテ 大友 順 (おおとも じゅん)
シテ方宝生流能楽師

1971 年生まれ
18 代宗家宝生英雄、19 世宗家宝生英照に師事
初舞台:1992 年「国栖」天女
初シテ:1997 年「禪師曾我」
同門会「宝友会」を主宰



箏 柿原 千紘
(箏曲生田流 修士1年)



箏 町田 夢子
(箏曲生田流 修士1年)



三絃 藤重奈那子
(箏曲生田流 修士1年)



三絃 脇坂明日香
(箏曲生田流 修士1年)



三絃 久保 浩助
(箏曲生田流5年)

《 尾上の松 》 作詞者不詳 作曲者不詳 宮城道雄箏手付

この曲は、作詞者作曲者が共に不詳で、九州系という一部の流派にのみ伝承されてきた曲でしたが、宮城道雄が大正8年(1919年)に箏の手付を行ったところ、その華やかな手付が好評を博し、広く世の中に知られる曲となりました。現在では名曲とされ、演奏される機会の非常に多い曲となっています。

「尾上の松」とは、兵庫県加古川市の尾上神社にある松のことで、歌詞は和合長寿の象徴である松にかけて平和な御代を祝う内容となっており、序盤には謡曲《高砂》の一節を引用しています。長い前弾きや、「楽」とも呼ばれる独特な雰囲気の手事(歌のない器楽部分)を持つなど、他の曲にはない特徴を持った作品です。後歌の後半では箏の手がより一層技巧的で華麗になり、三絃との息を呑むような合奏が聴きどころとなっています。

藤戸(ふじと) ~あらすじ~

佐々木盛綱は先陣の功により備前の児島を賜ります。家来を引き連れ島に渡ると、年老いた女が現れ、息子を殺された恨みを訴えます。実は盛綱の先陣の功には秘密があり、馬で海を渡ることのできる浅瀬を知ってそこを渡ることによって功を立てたのです。その浅瀬を教えた若い漁師を、盛綱は夜宴に乗じて斬り捨て、海に沈めたのだが、年老いたその女こそ盛綱が殺した漁師の母だったのです。我が子を返せと迫る母を宥めて家へ送らせ、あらためて法要を営むと殺された漁師の霊が現れ恨みを述べますが、法力によって成仏します。

宝生能楽堂「ナイトモード」



開場(17:30)~開演(18:30)まで、ビストロ Abats. による夜能プレ・ディナーボックス(ワンドリンク付き)をご提供します。引換券は能楽堂事務局にて事前販売しております。1名様 ¥1,600(税込)(※公演当日の販売も御座いますが数に限りがありますので、お早めにお求め下さい。)

次回公演予告

5月31日(金) 18:30 開演/17:30 開場
能 「舍利」シテ 高橋 憲正
尺八 『磯松風』東京藝術大学学生
仕舞 テーマ【鬼】
「大江山」佐野弘宜
「飛雲」藪 克徳